

総合周産期母子医療センター（産科部門）

1. スタッフ（2022年4月1日現在）

センター長	（教授）河野 由美
副センター長	（教授）藤原 寛行
母体胎児集中治療管理部部长	（教授）高橋 宏典
分娩部部长	（教授）大口 昭英
院内助産所部長	（准教授）薄井 里英
医員	（講師）鈴木 寛正
	（助教）小古山 学
	（助教）堀江 健司

他 病院助教、シニアレジデント9名
（婦人科、生殖部門を除く）

2. 特徴

栃木県の周産期医療の中心的施設として獨協医大同センターと協力し診療にあたっている。病床は58床（MFICUベッド12床、一般ベッド46床）で運営している。さらに、栃木県の周産期連携センターでもあり、母体搬送の受け入れ先を確保する業務を担っている。3次施設としてのセンター機能を十分に果たすと共に、地域医療施設としての一般妊産婦診療まで幅広く行っている。また院内助産所ラヴィでは大学病院という安全な環境のもとに妊婦主体のアットホームな分娩産褥サポートを提供している。2021年夏から麻酔科と協力して計画無痛分娩を開始した。

施設認定、専門医・認定医は産科アニュアルレポートに掲載

3. 実績・クリニカルインディケーター

I. 母体・胎児集中治療管理部

1) 入院時病名

病 名	患者数
1. 分娩のための入院	603
2. 新生児（TTN、黄疸など）	173
3. 切迫早産	95
4. 多胎	88
5. 流産、人工妊娠中絶	59
6. 他科疾患合併妊娠	51
7. 妊娠高血圧症候群、HELLP	44
8. 胎児発育不全	44
9. 前置胎盤・低置胎盤	38
10. 切迫流産	31
11. 羊水検査	31
12. 産褥異常	25
13. 早産期前期破水	12

14. 頸管縫縮術	12
15. 妊娠悪阻	10
16. 羊水量の異常	8
17. 胎児機能不全・胎盤機能不全	7
18. 胎児死亡	6
19. 帝王切開癒痕部妊娠	4
20. 常位胎盤早期剥離	2
21. その他	48
計	1391

2) 母体搬送受け入れ実績

母体搬送依頼件数 194件

当院受け入れ件数 133件

3) 母体搬送時診断

病名	患者数
1. 切迫早産	35
2. 産褥異常（※）	23
3. 妊娠高血圧症候群、HELLP、子癇	17
4. 切迫流産、流産	10
5. 早産期前期破水	7
6. 胎児発育不全	7
7. 羊水量の異常	3
8. 前置胎盤・低置胎盤	2
9. 他科疾患悪化	2
10. 常位胎盤早期剥離	1
11. 急性腹症	1
12. その他	25
合計	133

※内訳

弛緩出血6件、胎盤遺残5件、膣外陰血腫5件、術後感染5件、子宮内反症2件

4) 近県との連携

県外へ搬送した件数	0件
県外から受け入れた件数	12件

II. 分娩部

1) 分娩件数

総数	901
内訳 単胎	824
双胎	77
帝王切開	479
吸引分娩	50

2) 分娩数推移

(年)	2017	2018	2019	2020	2021
総分娩数	989	948	884	904	901
単胎	872	851	802	816	824
双胎	117	96	80	86	77
品胎	0	1	2	2	0
帝王切開	533	486	535	510	479

3) 単胎分娩週数

早産 118件 (14.3%)
過期産 11件 (1.3%)

分娩週数	件数
22-27	11
28-33	30
34-36	77
37-41	695
42-	11
合計	824

4) 単胎出生体重

低出生体重児 176人 (21.7%)

出生体重 (g)	人数
～499	3
500～999	10
1,000～1,499	19
1,500～2,000	34
2,000～2,499	113
2,500～3,999	635
4,000～	10
合計	824

5) 双胎分娩週数

早産 33件 (42.8%)

分娩週数	件数
22-27	0
28-33	6
34-36	27
37-41	44
合計	77

6) 双胎出生体重

低出生体重児 112人 (72.7%)

出生体重 (g)	人数
～499	4
500～999	1
1,000～1,499	2
1,500～2,000	25
2,000～2,499	80
2,500～	42
合計	154

7) 出産年齢分布（括弧内は多胎妊婦）

年齢	件数
総分娩数	901
若年（19歳以下）	6 (0)
	0.6 (0) %
高年（35歳以上）	414 (37)
	45.9 (48.1) %

4. 2022年の目標・事業計画等

栃木県の周産期連携センターとして、獨協医大と当院が良好な関係を保ちながら、県内の母体搬送はスムーズに行われている。今後も行政や、総合・地域周産期母子医療センターと協力し、栃木県の周産期医療の発展に努めたい。